

## 表現性コミュニケーションの指導について

### 1) 自閉症における表現性コミュニケーション問題

1. 話しことばの発達の遅れ
2. 非言語性コミュニケーション（身振り・表情・視線・体の向きや姿勢など）の発達の遅れ
3. コミュニケーションの問題
  - 他者と共に行う相互的な行為であるという概念が理解されていない
  - コミュニケーションしようという意図が乏しい
  - 持っているコミュニケーションの手段を適切に使えない
  - ことばが話せても会話において問題がある

### 2) 表現性コミュニケーションの指導

目標...ことばを話せるようになることではなく自分の気持ちや思いを人に伝えられるようになること

#### 1. 子どもが使えるコミュニケーションの手段の開発

- いろいろな手段の中から子どもが使いやすい方法を開発  
2つの手段を一緒に使ったり 場面により使い分けることもある
- ことば（単語を言う・文章を言う 他）
  - 発声（「あー」と声を出し伝える
  - 身振り（ちょうだい・指さし・首を振る・手を合わせてお願い・バイバイ 他）
  - 直接動作（手を引っ張る・人の手と持って行き使う 他）
  - 写真・絵（渡す・指さす 他）
  - 文字（文字を書いて伝える・文字で書かれたカードを渡す 他）

#### 2. コミュニケーションしようという気持ちを育て色々なコミュニケーションができるようにする 子どもがコミュニケーションしたいと思うことや物を見つける

（好きな食べ物・おもちゃ・大人と一緒にする遊び・大人にしてほしいこと 他）  
子どもがコミュニケーションする必然性のある場面を意図的に作る

ex. お菓子を少しずつ与える

見えても手が届かないところにおもちゃなど置く  
ふたを硬く閉めた透明な容器に好きな物を入れておく  
パズルやジグの部品（ピース）を足りないようにしておく  
選択肢を与え選択してもらう  
人とするパターン化された遊びを作り要求を待つ

すべて満ち足りた状態にしないでちょっと「いじわる」になることも必要です  
環境が構造化されていることが自発的コミュニケーションのおこる前提になります

今何が起きているか・次に何が期待できるかが分かる

↓

何を伝えたらよいのか分かる・伝える

